

No.80 ジョゼ・デ・ギマランイス 「偶像」

José de Guimarães

北川フラムさんのコラム / 1997 (平成9) 年7月15日付 立川市市報記事より

ギマラインシュは楽しい人型を作る作家で、ポルトガルのトップアーティスト。その作品はほほえましく、さわやかだ。が、ファーレ立川では期待に反して（実はその方が嬉しいのだが）街角の道しるべのような彫刻を作った。彼にいわせると「ここには光が必要だ。タイルの破片はあざやかで明るい」ということだった。「街の灯」をギマラインシュは作ったのだ。

この（平成9年）7月オープンした新しい京都駅は、原広司さんの設計になる素晴らしい内部空間を持っているが、そこでギマラインシュはビール会社のための巨大なアート広告を作った。それは見事な作品で、横尾忠則、リヒテンシュタイン、ロバート・ロンゴなどの一流作家と競演している。そこは一種の新しい美術館で、皆さんもぜひご覧になってください。

作家のメッセージ / 日本住宅公団（現：UR都市機構）「ミニ通信」より

北川フラムさんから、ファーレ立川という新しいプロジェクトの為の作品を作ってほしいという提案を受け、私は大変興奮しました。

すぐに私の頭に浮かんだのは、通りに置かれた彫刻はそこを通る何千という人々と共に生きていくものだ、ということでした。

そこで私はおとぎ話に出てくる小人のようなすべての人々に日常にインスピレーションを与える魔法の人物を思いついたのです。

こうしてこの“偶像”の頭部が生まれました。それは”Çlochard“（放浪者？）のように野外で生活し、あらゆる人の心を照らし、人生のエネルギーとオプティミズム（楽観主義？）に糧を与える、魔法に住む親しい存在です。